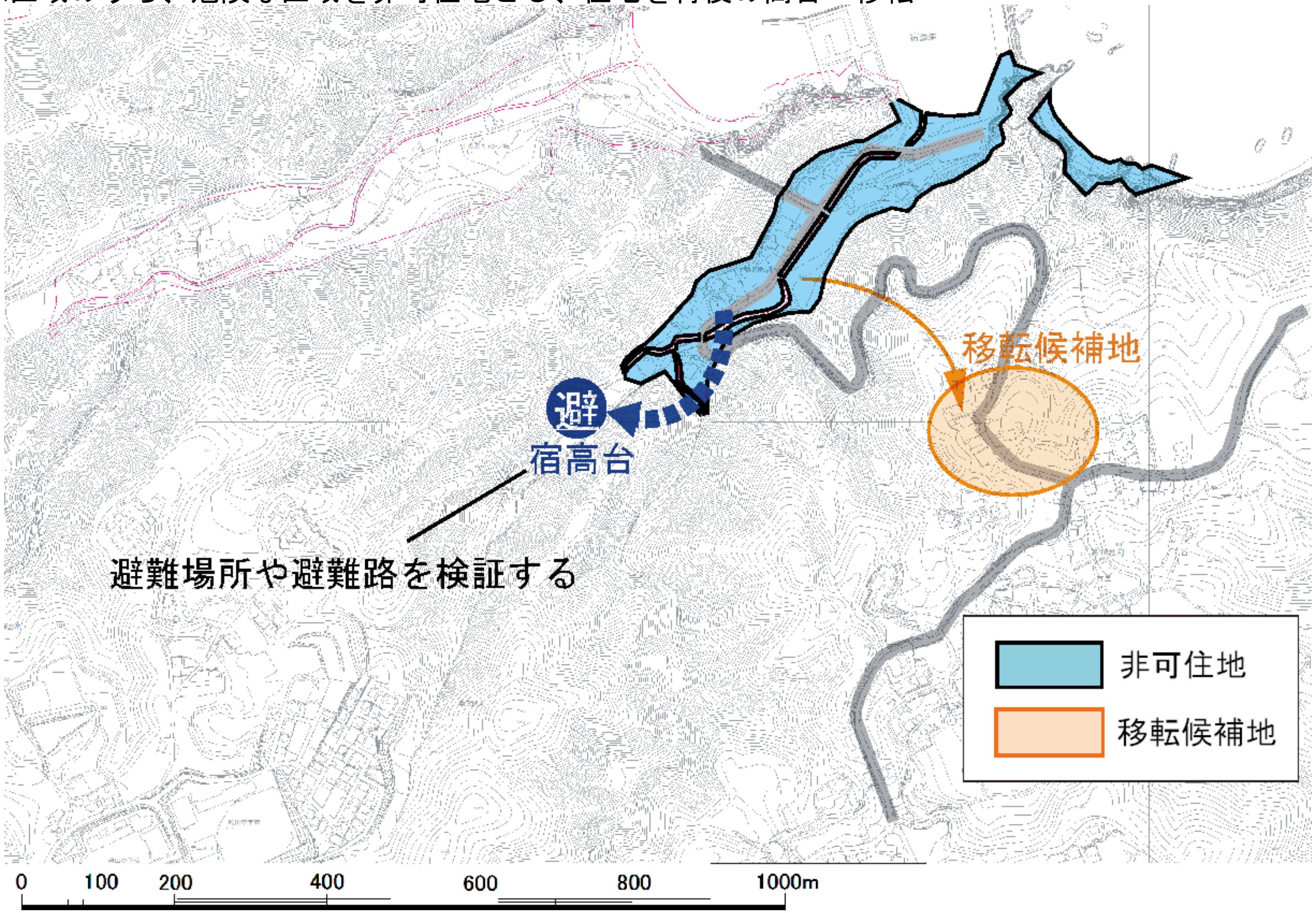
■ 宿地区の復興パターン案について

<table>
<tr><td colspan="2">被害の状況</td><td>・ 防潮堤がなく、漁港や川沿いの低地が浸水被害を受けた。
・ 浸水面積は 6.3ha にわたり、浸水高は TP+15～20mとなり、最大浸水深は 12mに達した。
・ 浸水区域内の建物（住宅以外も含む）の 100%が流失または撤去となる被害を受けた。</td></tr>
<tr><td colspan="2">復興まちづくりの考え方</td><td>・ 住む場所は津波被害を受けない安全な場所に確保する。
・ 津波到来時も背後の高台への避難を円滑に行えるよう避難場所や避難路を検証の上、必要に応じ強化・充実を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">復興パターン案</td><td>イメージ図</td><td>今回の浸水区域のうち、危険な区域を非可住地とし、住宅を背後の高台へ移転

</td></tr>
<tr><td>特　徴</td><td>・ 住み慣れた場所に近いところへの移転を行う。
・ 非可住地であっても漁業施設用地としての活用はできるが、住む場所と働く場所が分離することになる。</td></tr>
</table>